土浦ぬくもり工房

田邉淳一郎(班長)、高野佳佑(副班長)、秋保佳祐、大原光代、宮島渉　　TA：内山周子

1. 土浦市の現状

土浦市は、東京から約60km圏内、水戸から約40kmの場所に位置し、人口約14万人の規模を持つ都市である。つくば市と牛久市と共に業務核都市として指定されており、市とその周辺においては、霞ヶ浦や筑波山といった自然観光資源を有している。JR常磐線や常磐自動車道といった交通幹線網を持ち、地域間交通については非常に恵まれた環境にあるものの、モータリゼーションとそれに対応した郊外化が進んでおり、中心市街地における空洞化の問題が発生している。また、高齢化問題も土浦市では看過できないものとなっている。

2. 目標都市像

土浦市は古くから、人々が暮らし行きかう暖かいまちである。しかしながら現在、市内では高齢化、中心市街地の衰退などの問題が起こっており、町を見渡すと「コミュニティが危ない」「活気がない」「暮らしが不安」と感じる、寂しく、冷たい場所もある。

そこで本マスタープランでは、古くからの歴史や縁を大切にしていた「あたたかい」土浦の姿を守っていくために、土浦に「つながり」を生み出し、「にぎわい」にあふれ、「あんしん」に生活できるようにすることで、土浦を「ぬくもり」あふれるまちにすることを目標とする。

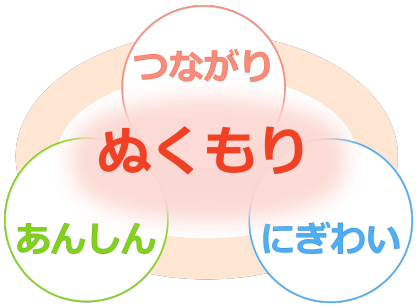


図1：目標都市像のイメージ

3. 地区別・部門別構想

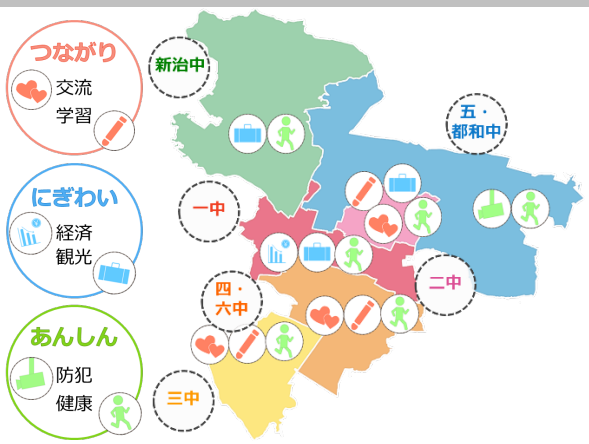


図2：地区別・部門別構想

目標都市像実現のために、「つながり」に関する、交流、学習分野については二中・三中地区、「にぎわい」に関する、経済分野は一中地区、観光分野は新治中・二中・一中地区、「あんしん」に関する、防犯分野は五中・都和中・二中地区、健康分野は四中・六中を重点地区に定め、施策を行う。これらの施策が実現することで、「つながり」があり、「にぎわい」があふれ、「あんしん」に生活できるまちが実現され、「ぬくもり」あふれるまちが想像される。

4. 重点計画

4-1. ぷらっとハウスプラン

二中・三中地区を対象に、地域における交流促進を目的とした「ぷらっとはうすプラン」を実施する。

マスタープラン策定にあたり、市内で地域コミュニティの現状についてのヒアリング調査をした際に、「地域のイベントへの親子での参加が少ない」「近年ではコミュニティの重要さが増した」という意見が聞かれた。また、市民満足度調査での「地域コミュニティが良好である」という質問について、「そう思う」と回答した割合が全体よりも低い地区や、「そう思わない」と回答した割合が全体よりも高い地区が多く見られ、このことから地域コミュニティを育む必要性があると考えた。

そこで、空き家・空き店舗を活用した、住民が気軽に立ち寄れるコミュニティスペース「ぷらっとはうす」をつくることを提案する。「ぷらっとはうす」は公民館などの公共施設とは異なり、無料で、いつでも誰でも気軽に利用できる施設とし、長期間に渡る、無理のない運営できるようにするため、普段は地域の住民が集うカフェとして利用されるもとのとする。

地域性を活かすために、二中地区では土浦一高やつくば国際大学といった教育機関が集中していることを活かし、定期的に学生サークルによるイベントを行う。それにより幅広い世代で交流し、地域の人と自然と顔見知りと成ることで地域コミュニティの活性化を図る。

また、三中地区においては、子育て世代の主婦が多いため、「ぷらっとはうす」において、すでに子育てを経験した主婦と若いママさんとの交流を生むことで、世代間交流を図る。

図3：「ぷらっとはうす」の事業スキーム

4-2. まちなか行くべプラン

一中地区を対象に、市街地活性化を目的とした「まちなか行くべプラン」を行う。

一中地区に位置する中心市街地では、近年歩行者交通量の減少とシャッター街化が問題となっている。また、インタビューの結果、利用者側となる市民の声の多くが「市街地には買い物場所がない」というものであったが、市街地の事業者からは、「良いお店があるけれど気づかれない」といった声も聞くことができた。かたや、市役所や図書館といった新たな都市機能の市街地への移転や中心市街地活性化基本計画に基づく各種事業が今後行われる予定である。

そこで、街のPRと利用促進を地域一体で行い、多くの人が行き交うまちの実現のため、下の3つの具体的事業を行う。

①地域カードの導入

商店街の協賛店を利用した際や、ボランティアなどの地域活動参加を行った際にポイントの進呈を行い、それを市街地の協賛店等で利用可能なポイントとすることを提案する。また、導入費用低減のため、そのポイントを来年度導入される個人番号カードに集積させる。

市をはじめとした主体が関わる組合を組織し、実際にポイント付与を行う主体に対して、システム導入や機能搭載などを行う役割を担う。また、カード交付時に、街の情報を掲載したブックレットを配布するほか、同じものを図書館や協賛店などにも設置し、広報活動を行う。図書館での発行を可能とする際には、図書貸出カード機能の実装も行うことも提案する。

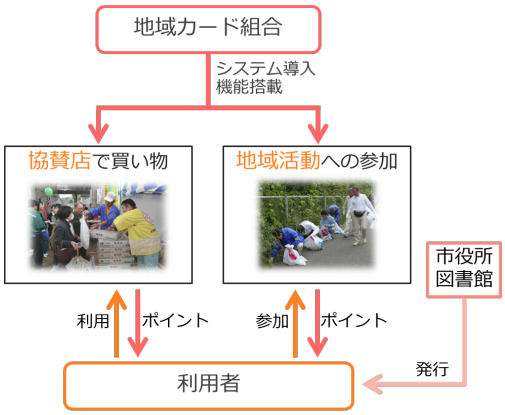


図4：地域カード事業スキーム

②地元店主による「まちゼミ」の実施

「まちゼミ」とは、商店街の店主らが講師となり、各自店舗で自分が持つ専門的な技術や知識を顧客に対してレクチャーするというもので、店主側にとっては、自店舗のPRの場として、また、まちゼミ参加者との交流や意見交換の場として用いることができ、参加者側にとっては、各種専門的な技術や知識と店舗の情報を得ることができるのはもちろんのこと、事業者や同じまちゼミ参加者との交流を行うことができる。加えて、市街地で起業を考えている主体に対しても、既存の小ホールなどを実施場所とし、このまちゼミを利用したPR活動を行うことができるように計画を行う。また、当事業は、地域カード事業内の「地域活動」の一環とする。

③まちの駅施設拡充計画

現在、モール505にある「まちなか交流ステーションほっとONE」は、主に勉強スペースや習い事の場として利用されているが、それら機能を同様に有する図書館の移転が決定しており、今後「ほっとOne」はどのような機能を持って継続していくことが望ましいかを考えていく必要がある。

そこで、現在505の中央にある「ほっとOne」を図書館に隣接する棟に移転させ、規模を拡大した上で、既存の談話室や会議室の機能に加え、地元農家と連携する産地直売所を併設した、食事を楽しむことができるカフェとしての機能を付加することを提案する。また、このカフェは、事前に予約を行えば、スペースの制約上自店舗でゼミを行えない事業者や、今後市街地での開業を検討している事業者のまちゼミ会場として、また料理教室等、図書館では行うことができない習い事を行える場所として貸し出すことも可能とし、図書館と補完的な役割を持つ学びの場とする。

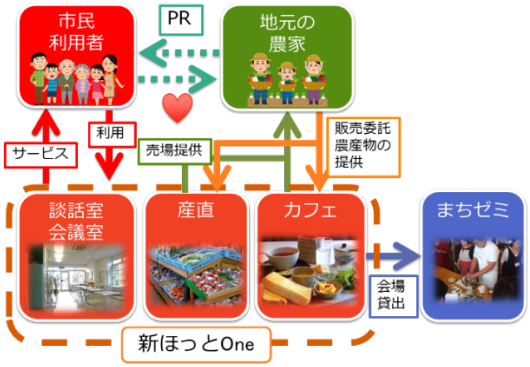


図5：新ほっとOne事業スキーム

4-3. さわやかりんりんプラン

一中・二中・新治中地区を対象に、自転車道を活かした土浦の魅力向上を目的とした、さわやかりんりんプランを行う。

霞ケ浦自転車道は霞ケ浦を一周する全長94キロの自転車道で、霞ケ浦の眺めが楽しめるコースである。りんりんロードは1987年に廃止された筑波鉄道の跡を活かした、豊かな自然や歴史に恵まれた40キロの自転車道である。りんりんロードには自転車のパンク修理機材の貸し出しや休憩ができるサイクルサポートステーションが70か所あり、運営は地域の方によるボランティアやコンビニなどが協力している。これらの2つの自転車道は接続する予定がある。

土浦市の満足度調査によると、土浦の中でも霞ケ浦やサイクリングロードをより活かし、売り込むべきという声が多い。また、自転車の聖地として有名なしまなみ海道と今のりんりんロードを比較すると、レンタサイクル、ホテル棟での自転車の貸し出し、自転車持ち込み可能な宿、道の駅の数の項目がりんりんロードには不足していることがわかった。以上より自転車道で土浦を売り込むには今までにはない道の駅のような機能やレンタサイクルを備えた拠点が必要であると考えた。

さわやかりんりんプランの方向性は、レンタサイクルや周辺の観光情報を発信する拠点の整備、サイクルサポートステーションのように地域を巻き込んだサイクルツーリズムの推進、廃線跡のブランドを活かしていくという3つである。

1つ目に自転車の駅プランを提案する。土浦市内の二つの地点にレンタサイクルや周辺の観光情報を発信する拠点を行う。

周辺を緑に囲まれている藤沢休憩所には里山の駅として、地元産のそばを使った蕎麦屋や名産品店を含む施設を整備する。また、アクセス向上のために駐車場も整備する。こちらの運営はシルバー人材バンクの方や地元の方のボランティアを募る。霞ケ浦のほとりで、りんりんロードと霞ケ浦自転車道に近い川口二丁目には地元産食材を使ったレストランや温浴施設、自転車を持ち込めるホテルを整備する。二つの拠点整備で地域を巻き込んだサイクルツーリズムの推進をしていく。

2 つ目に土浦市内のりんりんロードの各休憩所に駅表示板を設置し、線路のペイントを行う。この二つの整備によって廃線跡のブランドを活かし、魅力の向上を図る。

里山の駅、水辺の駅プランと駅表の設置、線路のペイントプランを行うことで、廃線跡を活用した自転車道からの地域活性化、土浦の自然・歴史を実感してもらうことができる。

図 6：里山の駅の完成イメージ図

4-4. あんしんつくろうプラン

五中・都和中・二中地区を対象に、住民の防犯意識・危険意識向上を目的として、あんしんつくろうプランを実施する。

土浦市では犯罪が多く発生しており、犯罪率で見ると茨城県内では最悪、日本全体でも悪い部類に入っている。しかし、市民満足度調査によると「地域ぐるみで取り組む防犯のまちづくり」の取り組みに対する満足度は高くなっており、犯罪の発生と防犯の取り組みの満足度には乖離が見られる。また、防犯の取り組みに対する重要度も高く、防犯意識をより高められるのではないかと考えた。

交通事故については、幹線道路での交通事故が多い一方で、生活道路でも交通事故が多発している。生活道路を見ても狭く見通しの悪い道路や、車の速度が速い道路が見受けられる。

そこで、地域一体となった安全マップづくりを提案する。安全マップとは、犯罪や事故が起こりやすそうな場所が書かれた地図で、現在では市内の藤沢小学校でマップ作成のカリキュラムが存在するが、地域への公開の機会などが少ないことから、地域と一体となって取り組む安全マップづくりを推進するものとする。

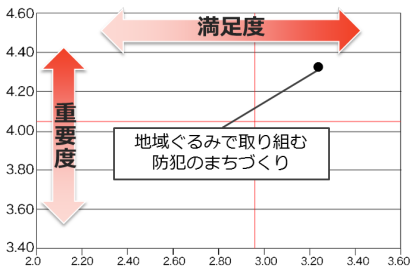


図 7：(左)藤沢小の安全マップ　(右)市民満足度調査(2013 年)

安全マップづくりでは、小学生の他に保護者や自主防犯組織で活動する方など，地域の住民にも参加してもらい、小学校の先生や生活安全課に指導してもらうことを考える。これにより、世代の垣根を超えて地域で一丸となって取り組むことを目指す。安全マップづくりは毎年行い、継続的に行うことで安全マップづくりのノウハウを繋ぎ、また安全マップの情報を更新していくことを目指す。

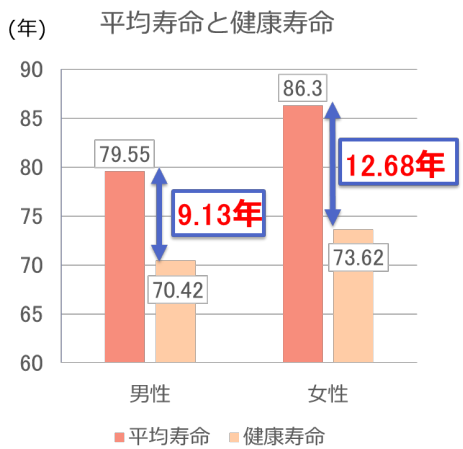
安全マップづくりのメリットは、地域内の交流が促進されること、地域への愛着がより増えること、そしてこどもたちが安全マップづくりに関わるということで、こども目線で明るみになる地域の問題点が発掘できることが挙げられる。

完成した安全マップは小学校や公民館、コンビニなどに掲示したり、縮小版を各家庭に配布したり、危険箇所への対策を警察など関係機関に働きかけたりすることに活用する。これにより地域住民に情報を共有したり、関係機関を介して防犯対策へ反映したりすることができる。

4-5. ピンピンコロリプラン

四中・六中地区を対象に、高齢者の健康寿命増進を目的として、ピンピンコロリプランを実施する。

マスタープラン策定に当たり、土浦市における高齢化の現状について深く把握するため烏山団地と天川団地へヒアリング調査を行った。その結果、現在は地区内で交流が行われているものの高齢化の進行に伴い地区の後継者や指導者が不足し、将来的に現在のコミュニティが維持できるか、危機感を持っているということがわかった。



内閣府「平成25年版高齢社会白書」より作成

図 8：平均寿命と健康寿命の差

今後、土浦市内では高齢者がますます増加する事が予想されるが、高齢になって困る事は健康な日常生活ができなくなる事である。グラフの通り、日本の平均寿命と健康寿命には大きな隔たりがある。

そこで本プランでは高齢者の健康寿命増進を目標とし、高度経済成長期に開発された団地が多く、団地住民の高齢化が進行している四中・六中地区を重点地区とし、施策を展開する。

高齢者の健康を維持するためには運動・社会参加・食事の 3 要素が重要であるという事が知られている。本プランでは地区においてこの 3 要素を促進する取り組みを推進する。

まず、社会参加については、現在の自治会活動を将来にわたって維持するため、地域をリードする後継者を育成する必要がある。そこで本マスタープランでは意欲のある高齢者を育成するリーダー研修会を年に数回開催し、後継者を育成していくことを計画している。

また、現在のシルバー人材センターを拡充し、シルバー専門人材バンクを設置する。現在、シルバー人材センターは駐輪場の管理人や、公園の草刈りなど、単純労働の募集を多く行っているが、専門人材バンクでは、より専門性の高い職で高齢者が働けるような仕組みを作ることによって、高齢者の専門スキルが活用できる機会を形成する。

運動分野においては、朝のお散歩・ラジオ体操プロジェクトを団地内の公園で 1 日 30 分程度実施する。ラジオ体操を行う人は実年齢より体力年齢が若くなる事がわかっており、高齢者の健康寿命を伸ばすのに大きな効果があると考えられる。

食事分野においては、自治会での月 1 回程度の食事会を提案する。現在、土浦市では一人暮し高齢者等を対象に有料で食事を配達するサービスを提供しているが、食事が家まで配達されては、地域との交流が生み出されない。そこで本マスタープランでは自治会ごとに月 1 回程度の食事会を行い、栄養バランスの良い食事を摂取すると共に、地域との交流を促していくことを計画している。

図 9：ピンピンコロリプランが提案するライフスタイル

5　まとめ

以上の提案を実現することにより、市内各地区で「つながり」「くらし」「にぎわい」に関する 6 つの分野である、交流・学習・経済・観光・防犯・健康が充足された土浦市になる。これによって、現状の土浦市を取り巻く課題を解決し、目標都市像であるぬくもりのあるまちを実現できる。

図 10：ぬくもりのあるまち土浦

6　参考文献・謝辞

参考文献

・筑波りんりんロード（最終閲覧日 15.01.15）
http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/kikaku/chikei/rinrin/

・茨城サイクルツーリズム（最終閲覧日 15.01.15）
http://cycle-ibaraki.jp/cycling_map/index.html

・静岡県ふじ 33 プログラム

・第 58 回東海公衆衛生学会「静岡県高齢者コホート調査に基づく運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」

・秋田県「社会参加促進の仕組みづくり」

・高山緑「青少年と高齢者の世代間交流プログラムに関する一考察」

・土浦市「平成 18 年度まちづくりアンケート調査」

・土浦市「平成 25 年度市民満足度調査」

・土浦市「中心市街地活性化区本計画」

・内閣府「平成 25 年版高齢社会白書」

・神奈川県立保険福祉大学健康サポート研究会「ラジオ体操の実施効果に関する調査研究」

・一般財団法人世田谷トラストまちづくり
http://www.setagayatm.or.jp

・神戸常盤大学 地域交流センター(最終閲覧日 15.01.15)
http://www2.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/education/regional.html

・新潟市「平成 26 年度空き家活用リフォーム推進モデル事業」（最終閲覧日 15.01.15）
http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/jyutaku/jukankyo/03sumai/26akiyakatuyou.html

・香川大学　平成 25 年度「地(知)の拠点整備事業(COC)」（最終閲覧日 15.01.15）
http://www.kagawa-u.ac.jp/topics/education/coc/

・ひがしまち街角広場（最終閲覧日 15.01.15）
http://e-machikado.jimdo.com

・樋野公宏（2005）「松山市久米地区における地域安全マップづくり報告」

・（独）科学技術振興機構（JST）　社会技術研究開発事業（2009）「子どもを守る防犯リーダー指導力アップテキスト」

・東京都青少年・治安対策本部（2005）「地域安全マップをつくろう！」

謝辞

・土浦市
　都市計画課 都市交通係　東郷様、中泉様、瀧ヶ崎様
　市民活動課 市民活動係　中山様

・町内会
　烏山二丁目町内会　沼尻様、堀田様、押久保様
　天川一・二丁目町内会　平澤様

・NPO 法人 まちづくり活性化土浦
　勝田様、小林様

・神立商工振興会　福田様

・モール 505 事務所　高野様

・ほっと ONE　立石様

・藤沢小学校　菱沼様

・二中地区市民委員会　野中様